

第 20 回総括検討会議事録

1. 開催日時 : 2021 年 11 月 10 日 (水) 13:30~14:50
2. 開催場所 : 日本電気協会 4 階 B 会議室 (Web 併用会議)
3. 出席者 (順不同, 敬称略)

出席委員 : 久保主査(東京大学名誉教授), 藤田副主査(東京電機大学),
白井幹事(原子力エネルギー協議会), 野元副幹事(関西電力), 岡田(電力中央研究所),
今村(東京電力 HD), 岩瀬(中部電力), 岩森(関西電力), 岩田(電源開発),
綿引(東京電力 HD), 大橋(清水建設), 宇賀田(大成建設), 藪下(竹中工務店),
樋口(東芝エネルギーシステムズ), 行徳(日立 GE ニュークリア・エナジー)

(計15名)

代理出席者 : 諸菱(大林組, 清水委員代理), 伊神(MHI NS エンジニアリング, 吉賀委員代理) (計 2名)

欠席委員 : 杉本(東京電力 HD), 古江(鹿島建設) (計 2名)

オブザーバ : なし (計 0名)

説明者 : 松居(関西電力), 重光(関西電力), 藪内(鹿島建設) (計 3名)

事務局 : 米津, 田邊(日本電気協会) (計 2名)

4. 配付資料

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| 資料 No.20-1 | 第 19 回総括検討会議事録 (案) |
| 資料 No.20-2 | 原子力規格委員会 耐震設計分科会 総括検討会委員名簿 |
| 資料 No.20-3-1 | 2022 年度各分野の規格策定活動 |
| 資料 No.20-3-2 | 原子力規格委員会 耐震設計分科会 2022 年度活動計画 (案) |

5. 議事

事務局から, 本検討会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後, 議事が進められた。

(1) 資料確認, 代理出席者の確認他

事務局から配付資料の確認の後, 資料 No.20-2 に基づき, 代理出席者 2 名の紹介があり, 主査により承認された。本日の出席者は, 現時点で代理出席者も含め 16 名で分科会規約第 13 条 (検討会) 第 15 項に基づき, 決議条件の「委員総数の 2/3 以上の出席」を満たしていることを確認した。また, 説明者 3 名の紹介があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局から, 資料 No.20-1 に基づき, 第 19 回 総括検討会議事録 (案) の紹介があり, 正式な議事録とすることについて, 特にコメントはなく, 全員賛成で承認された。

(3) 2021 年度活動実績・2022 年度活動計画について

1) 2022 年度各分野の規格策定活動（案）について

野元副幹事から、資料 No.20-3-1 に基づき、2022 年度各分野の規格策定活動（案）について説明があった。

主なご意見、コメントは下記のとおり。

- ・ 耐津波規程のところを 2014 年に制定したという記載を 2021 年に改定したと変更しているが、次の文書の火山影響評価技術指針が 2015 年に改定したという記載と年代が前後している。また、「原子力発電所耐津波設計技術規程（JEAC4629）の 2021 年に改定の記載が重複している。
- 津波検討会での修正と総括検討会副幹事の修正が異なる方向でなされたための不整合である。改めて調整して修正する。
- ・ JEAG4601 から津波の記載を切り離して新たなガイドとすることについて、前から見ている人にはいきなり記載がなくなっているように見えるので、何処かで分かるよう記載されるのか。
- 最終的な仕上がりについてはこれからの議論。JEAG4601 から丸々津波の章が無くなることをイメージしているが、ユーザーが戸惑うのではとのご指摘については、今後検討会で検討し、対応したいと考えている。
- ・ JEAC4601 の次回改定版からは完全に削除をした方が、津波関係は 4629 シリーズにまとめると関係が明確になるので、JEAC4601 の前書きあたりで、構成の変更について言及するのが最も適切と思っている。
- ・ 資料 No.20-3-1 の 17 頁だが、A3 の資料 No.20-3-2 の 2022 年度計画に書いた部分を No.20-3-1 に反映できていないので、追って反映したい。
- ・ 今回は紹介ということで、資料に対する決議は取らない。

2) 耐震設計分科会 2022 年度活動計画（案）について

各委員より、資料 No.20-3-2 に基づき、耐震設計分科会 2022 年度活動計画（案）について各検討会での検討結果について説明があった。

主なご意見、コメントは下記のとおり。

- ・ 「JEAC4601-2021」といった規格番号の年号はカレンダー一年、制・改・廃の見通しの年号と「2022 年度活動計画/中長期活動計画（案）」の年号は年度の記載の方針だが、間違いが無いよう記載を確認すること。
- ・ JEAC4601 の次回改定に向けた方向性を打ち出すのが良いのではと考える。例えば土木は破砕帯の影響評価とか具体的にかなり書いてあるが、その他の検討会も記載できるものがあれば充実するとよい。
- ・ 資料 No.20-3-2 の 22 頁の JEAG4601 の土木構造物検討会の制・改・廃の見通しの部分で、2020 年度改定予定と書いてあるが、誤記の修正をすること。また、2022 年度活動計画/中長期活動計画（案）の「制定後（2025 年）の改定版成案を目指し」の文書がおかしいので

見直すこと。

→ 前者は事務局の修正忘れなので修正する。

- ・ JEAC4601 と JEAG4601 の両方の 2022 年度活動計画/中長期活動計画（案）に「地盤の安定性評価手法（液状化地盤・非線形解析）に関する研究成果および知見」が書いてあるが、規程と指針の両方に関係しているのか。

→ 規程と指針の両方に関係している。

- ・ 資料 No.20-3-2 の 22 頁の規格名称/改訂履歴 /検討会名称の所に、安全設計分科会と協調という記載があり、資料 No.20-3-1 と文言が異なるので表現を合わせること。

- ・ 資料 No.20-3-2 の 25 頁の津波検討会の 2022 年度活動計画/中長期活動計画（案）に書いてある「設工認審査ガイド」というのは略語と思われるので、正しい用語に修正する。

→ 確認して正しい用語に修正することにする。

- ・ 資料 No.20-3-2 の全体的な所として、2022 年度活動計画/中長期活動計画（案）の欄は記載を極力ブレークダウンして具体的に記載してほしい。

- ・ 火山検討会の軽石の話はアピールポイントとなるので、資料に盛り込めないか。

→ 資料 No.20-3-2 の火山検討会の 2021 年度活動実績の所に今回の軽石問題に対して、本指針では取込み済みである旨を書くと良いかと考える。

- ・ では、資料 No.20-3-1 と資料 No.20-3-2 の整合性を各委員に確認してもらい、来年 2 月の統括検討会で審議することにする。

(4) その他

- ・ 次回総括検討会は、2022 年 1 月末から 2 月初旬にかけて開催することとし、詳細については別途事務局で調整後、各委員に連絡する。

以 上